

リアルな国際関係を知り

難民支援活動への一歩を

稲葉 千晴 教授

Prof. Inaba Chibaru

都市と国際関係

3年次前期配当科目／専門部門（財政・行政科目群）

今、起きていることにまっすぐ目を向けよう

—「都市と国際関係」では、どのようなことを学びますか。

「都市と国際関係」では、国際社会の基礎や国際体系などを学びますが、今年度は特に難民問題を取り上げています。2022年に始まったロシアによるウクライナ侵略は、今も深刻な事態が続いています。関連する諸外国ではどのような問題があり、日本をはじめとする国々がどのような支援を行っているのか、我々ができることはどんなことか？などを、学生とともに考えています。名古屋市にもウクライナ難民の方が50名ほど住んでいますが、日本の支援とヨーロッパの支援を比べると違いが浮かび上がってきます。机上の国際関係論ではなく、今まさに、どこにどんな人が住んでいて、どんな声を上げているのか、リアルな国際関係や実地事情にも焦点を当て、難民支援活動へのアクションに繋がっています。

我々が日本で安全に生活している一方で、自国から逃れるしかない人々が存在する現実を目に向け、単なる観察者で終わらないよう現実を正しく理解し、その背景を考える力をつけることが、今必要なことではないでしょうか。

— 具体的に、学生はどのような学びを深めていますか。

講義では、国際関係論だけでなく実践的な人道的支援活動の

重要性を示し、今現実には起こっている重大な国際関係に関心を持ち、自分に何ができるかを考え、アクションを起こすきっかけになればと思っています。実際に難民支援活動の一環として、有志の学生やゼミ生と一緒に「杉原千畝ウクライナ難民募金」という街頭募金活動を行いました。ボランティア活動に参加することは、国際問題を理解するだけでなく、その国や、そこに住む人々への関心を深める良い契機となります。また、日本と他国との国際関係を超えて、将来の生活に必要な価値観や考え方を育むことにも貢献します。講義や活動を通じて、「自分に何ができるか」という視点から物事を考えられる人になってほしいと強く願っています。

現代社会を生き抜く力を身につけてほしい

— 都市情報学部で、どんな学びを経験してほしいですか。

今後の日本はグローバル化の進展により、どの業界に就職したとしても外国との関わりは避けられません。転職や出張で海外に行く機会、日本に住む外国人との交流も増えていくでしょう。国際的な人間関係を築く能力が、今後さらに求められます。学生には積極的に外国人と交流し、世界への視野を広げることで、現代社会を生き抜く力を身につけてほしいと思っています。それはきっと、今後の人生の糧になるはずです。



学生におすすめの一冊

第二次大戦下

リトアニアの難民と杉原千畝

シモナス・ストレルツォーバス著（明石書店）

第二次世界大戦中、ユダヤ人難民に日本通過ビザを発給し多くの命を救った杉原千畝。千畝の功績についてあまり語られていない、第二次大戦中のリトアニアの状況について、リトアニア歴史家が読み解いている一冊。このような状況の今こそ、難民支援活動を考えるときにぜひ読んでほしいです。



学生の声 /

稲葉先生の人脈で、外部の大学や公的機関のゲストが講演して下さったことが複数回ありました。国際関係は理解が難しい複雑な分野ですが、先生ご自身の経験や豊富な知識を交えた講義は、大変興味深く、とても理解が深まりました。都市情報という枠を超えて、今後生活していくうえで大切なことを学びました。

木崎 天翔さん(3年生)

